2019.3.12(火)
▶4.7(日)
平成館 企画展示室

東京国立博物館コレクションの 保存と修理

本特集は今年で19回目を迎えました。このリーフレットでは、今回の展示作品の中から「コート 濃紺ヴェルヴェット地花卉文様金銀糸刺繍」「南蛮屏風」といった本格修理と、当館内の保存修復の現場を、「予防」「診断」「修理」の観点からご紹介します。作品ごとの素材や技法、状態に適した修理を行ない、未来へと文化財を伝えるための保存活動をご覧いただき、一味違う展示をお楽しみいただければ幸いです。

コート 濃紺ヴェルヴェット地花卉文様金銀糸刺繍

のうこんヴェルヴェットじかきもんようきんぎんししゅう 【TI-418-1】

インド・ジャイプール　19世紀　1着
絹製ヴェルヴェット地に金属糸とスパンコールで刺繍、宝石で装飾
丈110.0cm　肩幅44.0cm　袖長56.0cm
修理　染技連文化財修理所

つややかに光る黒いヴェルヴェット地に金モール糸で豪華な刺繍を施し、ルビーや真珠、エメラルドといった貴石でまばゆいばかりに装飾されている。まさに王者の風格を感じさせるコートは、インド王族の一人マッダ・シーン2世が着用したという伝来がある。

宝石や金糸など重厚な装飾品の加重により、表地の傷みや刺繍糸の緩みが著しく、また衿や覆輪、裏地などの布の劣化と裂けが顕著であった。そのため、部分的に解体を行ない、しわを伸ばした後、補修裂をあて補強し、装飾部など解けた糸を綴じ付け直すなどの修理を行なった。

解体・クリーニング

刺繍部分は、ポリエステルネットを表面からあてて養生し、解体。ミュージアムクリーナーで埃汚れを取り除いた。

修理材料の染色と加工

適した材料を使用するため、繕いに使用する糸や布を選定し、オリジナルに違和感のない色や撚りの状態に加工した。

しわ伸ばし

しわの部分に化繊紙、防水透湿性素材をあて、その上から精製水を含ませた吸い取り紙を置いた。ゆっくりと裂に水分を与えた後、乾いた吸い取り紙の上から重しをのせ、しわを伸ばした。

修理前

修理後

修理の際に、再利用できなかった傷んだ糸や裂などは、資料情報として整理をし、のちの研究のために保管している。

補修

生地の損傷は裏へ補修裂を差し込み、補修糸で状況によって縫い方を変えて綴じ付けた。また、刺繍やボタンなどの装飾は元の位置へ縫い付け整えた。

仕立て

損傷の著しい裏地の黄緑の裂部分は新調した。補修を終えた表地、覆輪、裏地を縫い付けて仕立てた。

南蛮屏風

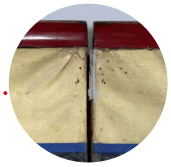
なんばんびょうぶ 【A-11128】

16世紀半ば、ヨーロッパと本格的な交流が始まったのを機に、日本では西洋人との貿易の様子を描いた「南蛮屏風」が成立し、流行した。本作品では南蛮船を迎える日本の港と、想像上の外国の光景が描かれる。筆者は狩野友信（1642～1726）の可能性が指摘される。

「友信」印　江戸時代・17世紀
6曲1双　紙本金地着色
縦154.8cm　横371.5cm
修理　半田九清堂

液体によるしみ

隅皺



彩色層の剝落が著しく、旧修理で剝落止めに用いていた接着剤と考えられる液体によるしみが鑑賞の妨げとなっていた。また、変形した下地骨が椽木（縁木）より突出していることが、隅皺や画面の擦れの原因であった。画面の剝落止めやクリーニングを行ない、下地骨を含め表装を新調した。

修理前

左隻

右隻

解体・クリーニング

養生後、椽木、金具を取り外し一扇ずつに解体し、汚れは化繊紙の上からろ過水や膠と布糊の混合溶液を筆で与え吸い取り紙に汚れを移した。

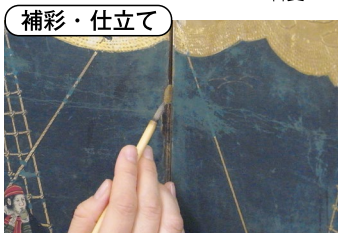
剝落止め

旧剝落止めが施された黒い絵具の部分は、絵具の上に固まっていた膠が原因で細かな亀裂が入り、硬くなって皿状に反り返っていたため、それを軟化させ、適した濃度の膠水溶液によって剝落止めをした。

補紙・裏打ち

画面を養生し、各扇の骨下地や裏打紙を本紙から取り外した。新しい補紙を施し、裏打ちをした。

補彩・仕立て



損傷の原因であった下地骨と椽木、表装裂は新調し仕立てた。その後、新規補紙箇所に、地色合わせの補彩を施した。また、部分的に欠失している金具は復元製作し、全体を元の形に仕上げた。

修理後

右隻

左隻

椽木の工夫

金具の凹凸部が、屏風をたたむ際に損傷の原因となっていたため、椽木に彫り込みを入れ、椽木の面の高さと金具の面の高さを揃えた。

修正前

彫り込みの様子

修正後

保存と修理の現場をのぞいてみましょう!

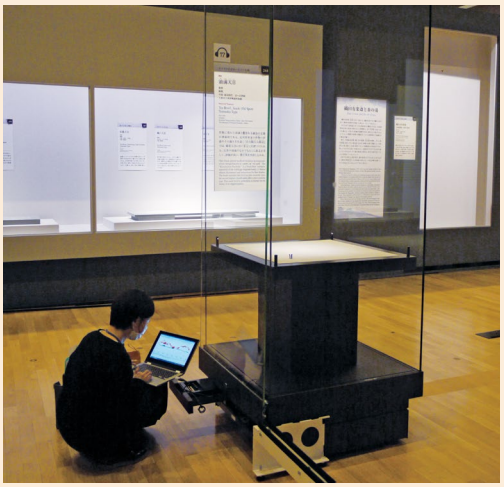
東京国立博物館の裏側では、あらゆる分野の文化財をより良い環境下で保存し、安全に展示するために、保存科学や保存修復の専門家たちが文化財に寄り添い展覧会を支えています。

予防 文化財をとりまく環境を整える

文化財の劣化や損傷の原因は、空気環境、光、害虫、移動による振動など、あらゆる場面に隠れています。文化財のおかれる環境を把握し、改善するために、温湿度の記録だけでも、データロガーや毛髪式自記温湿度計など約300地点（特別展を除く）ものデータを日々集積し、メンテナンスを実施しています。

●展示ケース内の温湿度を保つため、調湿材を設置

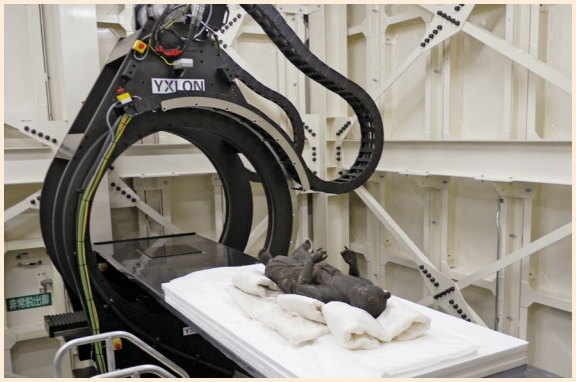
●酸化予防のために窒素（ちっそ）を充填（じゅうてん）させたケース内の環境調整



●展示ケース内の温湿度状況をデータから確認

診断 文化財や保存環境の状態を把握する

より安全な展示や保存、修理ができるように、目視（もくし）だけでは得られない情報を科学的に調査し、文化財とその環境の診断を総合的に行ないます。文化財の調査で得られた診断結果はカルテに記録され、その後に行なわれる処置内容とともに保管されます。



●仏像のCT撮影中

●CT画像で仏像の構造的な状態を確認

修理 損傷を直し文化財の安定化をはかる

収蔵品には、損傷していることにより展示が難しい文化財もたくさんあります。修理をすることで、安全な展示を可能にし、収蔵庫で眠っていた文化財が再び展示される機会を生み出します。また、劣化が原因でおきる二次的な損傷を防ぐためにも、修理は大変重要です。東京国立博物館では、解体を含む大がかりな本格修理と、展示に向けたクリーニングや必要最小限の修理などを含む対症修理を実施しています。

本格修理は年間約70件、対症修理は年間約500点以上の文化財に対して行なっています。

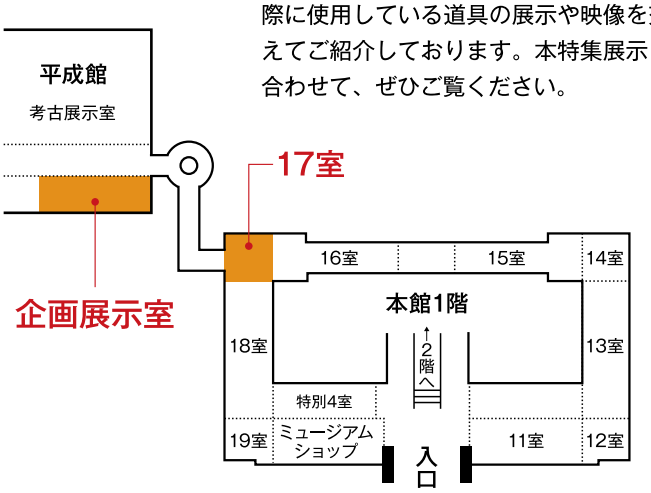
●安全に展示するため、中性紙のマットへ版画を固定中

●展示に向けた染織作品のしわ伸ばし作業中

●休館日、平常展示中の吉祥天立像の応急修理中

文化財保存 取り組みの紹介 本館17室

本特集展示「東京国立博物館コレクションの保存と修理」のほかに、本館17室では文化財保存の取り組みをご紹介する常設展示も行なっています。こちらでは、東京国立博物館の保存と修理について、絵画の修理、刀剣の研磨など実際に使用している道具の展示や映像を交えてご紹介しております。本特集展示と合わせて、ぜひご覧ください。



出品リスト

No.	名　称	員数	作者／出土／伝来等	時代	列品番号
1	南蛮屏風	6曲1双	「友信」印	江戸時代・17世紀	A-11128
2	自上野望山下之図	1枚	亜欧堂田善筆	江戸時代・19世紀	A-8587
3	多賀城碑図	1枚	亜欧堂田善筆	江戸時代・文化4年（1807）	A-8564
4	杜甫詩	1幅	夢窓疎石筆	鎌倉時代・文保2年（1318）	B-3474
5	土偶形容器	1個	長野県上田市腰越出土	弥生時代（前期）・前4～前3世紀	J-7532
6	須恵器 脚付短頸壺	1個	鳥取県日野郡日南町大字矢戸字名土出土	古墳時代・6世紀	J-14399
7	椀残欠	2個	岩手県平泉町 金鶏山経塚出土	平安時代・12世紀	E-15474
8	瑞花双鳳八花鏡	1面	千葉県成田市西大須賀字谷津谷津経塚出土	平安時代・12世紀	E-15522
9	三条実美像	1面	原田直次郎筆	明治時代・19世紀	A-729
10	コート 濃紺ヴェルヴェット地花卉文様金銀糸刺繍	1着	インド・ジャイプール マッダ・シーン2世着用	19世紀	TI-418-1

関連事業 ── ギャラリートーク

最新情報はウェブサイトで https://www.tnm.jp/

X線CT装置の保存修理への活用

日時：3月19日（火）14:00～14:30

場所：本館地下　みどりのライオン（教育スペース）

講師：宮田将寛（調査分析室）

通常では見ることのできない文化財の内部を調査し、保存・修理に貢献している、X線CT装置の活用事例をご紹介します。

修理後作品の見どころ紹介

日時：3月26日（火）14:00～14:30

場所：平成館 企画展示室

講師：土屋裕子（保存修復室長）

特集「東京国立博物館コレクションの保存と修理」の展示作品すべての修理のポイント、仕上がりの見どころなどを、保存修復担当の見地からお話しします。

※ は「UDトーク」対応、 は「ヒアリングループ」対応のイベントです。

編集・発行:東京国立博物館　制作:DNPアートコミュニケーションズ
＊掲載した写真は修理技術者よりご提供いただいたものも含まれます。

東京国立博物館の保存と修理

リーフレットに誤りがございました。お詫び申し上げますとともに、
下記の通り訂正をさせていただきます。

［訂正箇所］南蛮屏風（なんばんびょうぶ）　（画像左右入替）

左隻（させき）

右隻（うせき）